

評価・標準化研究会 H25年度 第3回

日 時：3月25日（火） 14：00から

場 所：東京大学生産技術研究所

(<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/map/komaba.html>)

\*部屋は追ってご連絡差し上げます。

タイトル：進化する衛星画像処理：過去の蓄積を如何に利用するか？

内 容：

(1) 衛星画像の精密幾何補正システムの構築とその活用  
システム補正後の各種衛星画像を統一的に処理するシステムを構築しています。いろいろなフォーマット (CEOS, HDF, GOETIF, L7A など) や方式 (geocoded、georeferenced、ortho など) のデータを空間基盤地図情報などの数値標高モデルに合わせ込む方法で、誤差の評価も付属させることができます。分割処理や補正後のデータの処理パラメータのみを保存しておくことなどを工夫しました。対象とする地域の補正済み衛星画像を効率的に取り出す方法やGUIなどを検討しています。位相限定相関法を用いた最適化法の検討や、簡易的なオルソ補正の改善とのRPCとの同等性の確認なども行っています。

(2) 衛星画像から表面の分光反射率と大気光学的厚さの同時推定  
これまではDNベースの衛星画像の大気・地形効果補正を発表してきましたが、これを6sを利用した物理量ベースに書き換えました。厳密に行おうとすると計算量が膨大となるのですが、その解決策を考えました。今、ATCOR3などとの比較を行っています。周りの斜面からの照返しなども組み込んで (GPUの利用など)、より完成度の高いものにしたいと思っています。この処理の自動化も検討しており、上記のシステムに組み込めればと考えています。